及父王の歸國舊の如くすべく、一臂の勞を予に哀願するにてありき。

坎巨地を通過せし土人に就きて、彼の地方の景況を聞くに、坎巨地人は回々教を奉ずる人民にして、土地の磽确なる爲め、土着して農業を營む者の少なく、大部は遊牧を事とす。其性慓忤、鼠賊多く、旅人又は郵便脚夫の、該地方を通過して、其難に遇ふもの一再ならず。故に印度政廳は、印度の旅客郵便物を保護する爲め、官兵を派し、英官一員を駐在せしめて之を監督す。現王は毎年人民より約五千留比の歳入あるの外、印度政廳より三千留比の支給を受けつゝ在り。地域廣大なるも、人民は二千餘戸、一萬五千人内外に過ぎず(疑はし)。地は素より清領なるが故に、其王は毎年北京に進貢す。其額指大の沙金袋十五個を定めとせり云々。

喀喇崑崙道を取りし理由

是より先、予は崑崙山を跋渉し、英領印度に出でんとするには、喀什噶爾より、ギルギット道即ち郵便路を取れば、僅に二十四日間を以て、スリナガルに達すべき爲め、該道路を採るの計畫なりしも、印度總督の許可なきに因り止むを得ず喀喇崑崙道に由るに決したり。總督の許可せざる理由は、途中保護し得ざること、及隣國に對し影響する所ありと云ふに在りき。恰も予の旅行に際し、露國の武官二名、相前後し